



10月31日に雨森芳洲庵で行われた登録祝賀会

朝鮮通信使に関する記録

ユネスコ「世界の記憶」登録決定!

お祝いの言葉



長浜市長 藤井 勇治

ユネスコ「世界の記憶」の登録、誠におめでとうございます。長浜市民を代表してお祝い申し上げます。

昨年12月の長浜曳山祭のユネスコ「無形文化遺産」登録に加えて、世界が認める文化遺産がもうひとつ増えたことは、大変誇らしく、ありがたいことです。

これまで、地域で雨森芳洲先生の顕彰活動が続けてこられた方々や先人たちに心から感謝し、市民の誇りとしてさらなる顕彰を進めていきたいと考えています。

ごあいさつ



雨森芳洲関係資料ユネスコ「世界の記憶」登録推進実行委員会
会長 北村 又郎

このたび、ユネスコ「世界の記憶」に登録されたことは、万感胸に迫る思いでございます。

今回の登録で、国際化の中で次代を背負う若者たちに、芳洲先生の教えが大きな道標となり、世界に大きく羽ばたいていただきたいと願います。あわせて、素晴らしい先人を生んだ故郷に誇りを持てる若者を育てるため、また、世界平和のためにも、今生きる私たちがますます顕彰活動に尽力していきたいと思います。

長浜にある朝鮮通信使に関する資料

今回登録された朝鮮通信使に関する資料111件333点のうち、1件36点が芳洲会(長浜市)の所蔵する「雨森芳洲関係資料」です。

11月に「世界の記憶」登録に合わせて、これらの資料の特別公開や、芳洲こどもミュージカル、シンポジウムなど多数のイベントが行われました。

ユネスコ「世界の記憶」とは

ユネスコ(国連教育科学文化機関)は、世界遺産、無形文化遺産、世界の記憶の三大遺産事業を進めています。

今回「朝鮮通信使に関する記録」が登録された「世界の記憶」は、危機に瀕した歴史的な記録物を最新のデジタル技術を駆使して保全し、研究者や一般に広く公開することを目的としています。古文書や書物、楽譜、絵画、フィルムなどの記録資料が対象となり、世界中で348件(平成27年10月現在)、日本では7件(平成29年11月現在)が登録されています。

朝鮮通信使とは

日本国と朝鮮国との国交は、二度にわたる朝鮮出兵「文禄・慶長の役」によって一時は断絶しましたが、江戸時代に入って対馬藩を仲立ちに回復しました。朝鮮国とは、江戸時代の鎖国政策の中にあっても、対等の友好国として正式な国交を結んでいました。そして朝鮮国王が日本の将軍に対して遣わした、「信を通じる」友好のあかしの使節団が朝鮮通信使です。

朝鮮通信使は、両国の平和的な関係を構築し、維持させることに大きく貢献しました。朝鮮通信使が往来する両国の人々の憎しみや誤解を解き、相互理解を深めたことにより、両国は外交のみならず学術・芸術・産業・文化などのさまざまな分



▲雨森芳洲像(芳洲会蔵)

自らの経験から、朝鮮外交の指針書『交隣提醒』を著し、国際関係における文化の相互理解や、「誠信の交わり」を説くなど、日本と朝鮮との善隣外交に顕著な業績を残した人物です。



朝鮮研究の成果や朝鮮外交に対する考えを記した雨森芳洲の代表的な著書「交隣提醒」

今回の登録を地域振興にどう活用していくかについて、パネルディスカッションなどを行いました。

